

自第一號（平成二十九年六月）
至第四號（平成三十年三月）

東洋史研究

第七十六卷 總目次

東洋史研究會

論 說

將軍から都督へ——都督制に對する誤解——	山口 正晃	一	(一)
中日書目比較考——『隋書』經籍志の書籍情報を巡って——	榎本 淳一	一	(三七)
中華民國初期における大總統就任式典	吉澤誠一郎	一	(五)
袁世凱政權期の學校教育における「尊孔」と「讀經」	宮原 佳昭	一	(二三)
秦漢の社會と「日書」をとりまく人々	海老根量介	二	(九七)
『類聚國史』所載の所謂「渤海沿革記事」の史料的人格について	赤羽目匡由	二	(三三)
一六八九年ネルチンスタ會議——口清兩國の國境交渉——	松浦 茂	二	(三七)
金毓黻『渤海國志長編』の成立過程について	古畑 徹	二	(六八)
順治朝における旗人の法と刑罰——内閣題本を中心に——	王 天馳	三	(五〇)
前漢諸侯王墓よりみた王國支配の實態——滿城漢墓と中山靖王劉勝——	楯身 智志	三	(三七)
前漢廟制論議と『禮記』祭法篇	末永 高康	三	(四七)
遼・西夏間の外交を巡って——婚姻の側面から見た——	藤野 月子	三	(四四)
明代天順期の閣臣李賢と内閣政治の變容	宋 宇航	四	(五五)
清代充軍の「流刑化」と内地軍流犯の過剩問題	キム ハンバク	四	(五九)
南朝における貴族制と皇帝權力再考——「二品才堪」と「門地二品」をめぐる——	李 濟滄	四	(六九)
唐後半期における賜姓ソグド人——涼州武威安氏と賜姓——	福島 惠	四	(六五)
五代・北宋における都城洛陽の退場——中國都城史の轉換點によせて——	久保田和男	四	(六九)

書評

古泉達矢著『アヘンと香港一八四五—一九四三』……………鬼丸 武士 一 (二四七)
楊韜著『近代中國における知識人・メディア・ナシヨナリズム』……………

——鄒韜奮と生活書店をめぐる——……………岩間 一弘 一 (一六)

陳來幸著『近代中國の總商會制度——繋がる華人の世界——』……………廖 赤陽 一 (一七)

村松弘一著『中國古代環境史の研究』……………大川 裕子 二 (三〇)

張東翼著『モンゴル帝國期の北東アジア』……………小川 伸 二 (三三)

宇佐美文理著『中國藝術理論史研究』……………塚本 麿允 三 (四六)

坂本 勉著『イスタンブル交易圏とイラン…世界經濟における近代中東の交易ネットワーク』……………水田 正史 三 (五二)

池内 敏著『絶海の碩學——近世日朝外交史研究——』……………石田 徹 四 (七六)

近刊叢欄

一 (一九) 二 (三五) 三 (四九) 四 (七二)

大會抄録

前漢前期の爵制と國制……………松島 隆眞 三 (四九)
春秋末期から戰國中期における楚の中原進出について……………山田 崇仁 三 (四九)
周代燕國の東遷……………宮本 一夫 三 (四九)

ロシア帝政期南東コーカサスにおける結婚と離婚……………	鹽野崎信也	三	(四九)
一六〇一八世紀モロッコにおける契約文書——東洋文庫所藏ヴェラム文書を通して——……………	佐藤健太郎	三	(四五)
約條・契約・條約——オランダ東インド會社（VOC）の外交を考える——……………	松方 冬子	三	(四五)
馮玉祥と張作霖——「孫文大總統」擁立構想をめぐって——……………	澁谷 由里	三	(四五)
宋學の元號論——災異改元批判と一世一元制——……………	小島 毅	三	(四五)
魏晉心性史試論……………	福原 啓郎	三	(四五)